

市内で唯一の認定補聴器専門店

自宅療養・入院中・高齢者施設入居など
ご来店できない方、**無料出張**いたします。



市川市役所正面・駐車場あります

ベスト補聴器センター
市川市八幡 1-16-2
☎(047) 335-5722

らいふマッサージ治療院
市川店

【TEL】0120-978-531
http://www.ss.konan.co.jp/life/ic/
営業日：月～土(9時～18時)

医師の同意に基づき、
健康保険が使える、
在宅訪問マッサージです。

対象となる方
歩行困難な方・寝たきりの方・要介護者の方、そのほか身体のどこかに不自由がある方。
※国家資格を持ったマッサージ師が訪問し、施術します。
まずはお気軽に「体験マッサージ」をお申し込み下さい!

栄養バランス・食べやすさに配慮した
日替わりのお弁当です!!

普通食(1食からOK)	
おかずのみ	525円
おかず・ごはん	577円

*宅配無料(土日祝も配達)。
*昼・夕 2食可能です。
*刻み食・おかけ 対応。
*安否確認 もお任せ下さい。

高齢者専門宅配弁当
宅配クック1・2・3 中山店
【TEL】0120-959-580
〒272-0001 市川市二俣1-1-23
営業時間：8時～17時
【HP】http://www.ss.konan.co.jp/123n/

難解な雨漏りを一発解決
雨漏り検査!

漏水検査工法特許第1964971号でピンポイント検出
修繕費の無駄はカット
壁、天井のしみを見つけたらまず、こー覗下さい!!!

tel 03-5875-6633

信頼と実績の
見取り無料 株式会社 サーベイ
検査・修繕 〒125-0062 東京都葛飾区青戸 6-27-7

広報いちかわ第1週号と第3週号に掲載する広告を1月26日(火)より募集します。詳しくは1月23日号でお知らせします。



▲細かな文様は刃先の異なる多様な道具を用いて創作される

第11回 市川の文化人展 1/23(土)～2/21(日) 芳澤ガーデンギャラリー

人間国宝 秋山逸生—木象嵌の美と技

市では、本市にゆかりがある文化人、芸術家を広く紹介するために、平成11年度より「市川の文化人展」を開催しています。11回目となる今回は、日本の伝統の技「木象嵌」を極めた市川市名誉市民で、人間国宝の秋山逸生氏をご紹介します。

秋山氏が長年、創作の場とした市川市においては、初の回顧展です。本展では、作品約50点と、書きためられたスケッチ、氏が使用していた道具類を展示し、秋山芸術の精緻な世界を紹介します。伝統の美と技をぜひご観覧ください。

- 会期：1月23日(土)～2月21日(日)
午前9時30分～午後4時30分
(入館は午後4時まで)月曜日休館
- 会場：芳澤ガーデンギャラリー(真間5-1-18)
☎374-7687
- 入場料：一般400円、シルバー料金(65歳以上)320円
団体料金(25人以上)320円、中学生以下無料
障害者手帳をお持ちの方とその介護者(1人)は無料 ※満点のエコポカード1枚で、1人1回入場できます。
- 関連イベント(入場料の必要も、先着50人)
・講演会：2月13日(土)午後2時～3時
講師 金子賢治(東京国立近代美術館 工芸課長)
・ギャラリーコンサート：1月30日(土)午後2時～3時
演奏 沼田絵恋(フルード)
早乙女潤(オーボエ)
吉武優(ピアノ)
- 問い合わせ：
☎334-1107
文化振興担当



▲金彩嵌飾箱(1975年) 市川市蔵



▲雷之山象嵌額(1966年) 千葉県立美術館蔵



▲金銀木画箱(1961年) 市川市蔵

▼木画箱下絵



▲スケッチより

「象嵌」とは文字どおり象(ゾウ)の牙、象牙、翡翠、珊瑚などを使って、文様を彫削する工芸技術のこと。奈良時代以降、木象嵌の技法が盛んになり、室町時代には象牙の文様を代表する技法として知られる。その優れた技の数々は正倉院の宝物として今日に伝えられています。また、木象嵌は木地に金属や貝、象牙、木や竹など異なる素材を象嵌することを言います。

芝山象嵌とは、貝や象牙、珊瑚、翡翠、珊瑚などを使って、文様を彫削する工芸技術のこと。江戸時代後期には上総国芝山村(現在の千葉県山武郡芝山町)出身の大野木専蔵(1745～1836)により考案され、出身地の芝山から「芝山象嵌」と呼ばれるようになりまし。

根付や印籠などをから屏風や家具にいたるまで、明治時代には日本の代表的な輸出土産でもありまし。しかし、今日「芝山象嵌」の技法を伝承する者は極めて少なく、秋山作品は伝統の美と技の両面において貴重な資料と言えます。

これまでの市川の文化人展

第1回 平成11年度
「宗左近宇宙」

詩人として美術評論家の宗左近氏。宗氏は日本人のルーツは縄文にあると考へ、縄文の人と芸術を深く敬愛されました。展示会では、宗氏の収集した東洋美術コレクションの紹介と講演会、中新田縄文太鼓の演奏を行いました。

第2回 平成12年度
「藤田喬平の世界展」

ガラス造形作家の藤田喬平氏。藤田氏は、ガラス造形に様々な技術と日本の感性に依る工夫を加え、伝統的な日本の美の心を作品に展開させ、「フジガラス」として国際的にも高く評価されました。展示会では市取蔵作品や横浜美術館などから約60点を展示しました。

第3回 平成13年度
「中山忠彦・美の世界展」

日本を代表する洋画家・中山忠彦氏。中山氏の美の世界を、油彩・リトグラフ・デッサン、さらに作品に描かれたアンティーク・オブジェのコレクションや思い出の写真などとともにご紹介しました。

第4回 平成14年度
「地域文化に光を灯した二人」

彫刻家の藤野天光氏と音楽家の村上正治氏。藤野氏は彫刻家として木彫、ブロンズなどを中心に制作し、また村上氏は音楽教師のかわらわ作品も手がけた音楽家です。戦後の復興期から地域文化の発展に貢献された二人を、作品展や演奏会で紹介しました。

第5回 平成15年度
「永井荷風 荷風が生きた市川」

文豪永井荷風は、昭和21年から昭和34年までの13年間を市川市で過ごしました。展示会では、自筆「蘭語辞書」をはじめ荷風の著作や生活資料とともに、当時の荷風を知る人の証言や写真など市川ならではの初公開資料も展示しました。

第6回 平成16年度
「相模と演芸 小島貞二の世界」

昭和22年中山に居を構え、平成15年に没するまで55年間を市川市で過ごした小島貞二氏。展示会では、相模、演芸評論家、放送作家として活躍された小島氏をそれぞれの貴重な資料とともに紹介しました。

第7回 平成17年度
「白寿記念 彫刻家 大須賀力」

白寿(99歳)をむかえた彫刻家の大須賀力氏を紹介しました。展示会では大須賀芸術の根幹となる女性像や、これまで出品されることが少なかった動物像、デッサンなどが多数展示されました。

第8回 平成18年度
「井上ひさし展 一本のペン先から広がる世界」

市川市で20年間を過ごし、創作活動を行った、作家の井上ひさし氏。展示会では、「本の海」といわれた書斎の再現やこまごまの舞台資料、自筆原稿など貴重な資料が多数展示され、講演会も行われました。

第10回 平成20年度
「静かなる情熱 佐治賢使の世界」

漆工芸の第一人者として知られ、独自の美の世界を創出した佐治賢使氏。伝統的な漆工芸の技術に、デザインや線描にこだわり、現代感覚を融合させた斬新な作品が展示されました。


第9回 平成19年度
「星野道夫展」

アラスカを拠点とし、極北の自然や動物植物、そこに住む人々を撮影した写真家の星野道夫氏。「いちかわ星野道夫展」は文化人展のほかに文学プラザでの企画展、文化会館での全国巡回写真展にコトンプラザでの写真展と、4会場同時開催で行われました。

あきまいつせい
秋山逸生プロフィール

1901(明治34)年 東京都墨田区に生まれる。
1918(大正7)年 島田逸山に師事し、芝山象嵌技術を習得。
1922(大正11)年 島田逸山とともに千葉県東葛飾郡市川町(現 市川市)に移り住む。木画は次兄、秋山鐵次郎から、彫金技法は桂光春から習う。
1962(昭和37)年 「芝山象嵌」で市川市指定無形文化財保持者
1970(昭和45)年 「芝山象嵌」で千葉県指定無形文化財保持者
1978(昭和53)年 勲五等瑞宝章受章
1987(昭和62)年 「木象嵌」で国の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定。紺綬褒章受章
1988(昭和63)年 5月22日没(享年86歳)
1989(平成元)年 市川市名誉市民として顕彰(受賞歴)

1949(昭和24)年 第1回千葉県美術展覧会(県展)で「透輪文象嵌箱」が千葉県教育長賞受賞
1968(昭和43)年 第8回伝統工芸新作展で「木画箱」が日本工芸会東京支部賞受賞
1981(昭和56)年 第28回日本伝統工芸展で「輪華文黒檀印箱」がNHK会長賞受賞



◀自宅にて